

2018 年度情報実験 I

2018 年 5 月 10 日 (木)

松浦 佐江子

□ 第3 回仕様変更

1. ボードの状態をアプレットを使用して表示する。
 - 入力第2回と同様に標準入力から行う。標準入力とのやり取りを行うため、起動は `appletviewer` より行う。ブラウザより起動できないので注意。
 - コマンドの入力毎に表示を更新する。
 - 長方形は作成された順番に上に重ねて表示する。
2. アプレットを起動するためのHTMLファイルの名前を `Test.html` とする。
コマンドプロンプトより、下記のように起動する。

```
appletviewer Test.html
```

画面が表示されたら、コマンドプロンプトより、第2回までと同様に必要な値を入力する。1つのコマンドの実行が終了すると、画面が更新される。

3. 全体のパッケージ名はEIEV3とする。AppletタグのCODEの値は
“EIEV3/RectangleEditor.class”とし、Test.htmlを適切な位置に配置してファイルを提出すること。提出ファイルは、ソースコード(*.java)とクラスファイル(*.class)とTest.htmlのすべて。
4. ボードの大きさは、Test.htmlに指定したアプレットのサイズに依存して決定する。
5. 以下のコマンドは確認とアプレットの実行停止のために用います。
 - `displayBoard`
 - `exit`

第3 回課題

- ・ 上記の仕様変更要求を取り入れたプログラム

なお、第4 回課題の「考察」では

- 1 回目の課題から2 回目の課題への仕様変更に伴うプログラムの変更点
 - 2 回目の課題から3 回目の課題への仕様変更に伴うプログラムの変更点
 - 3 回目の課題から4 回目の課題への仕様変更に伴うプログラムの変更点
- の観点から、仕様変更に伴うプログラムの変更について考察してもらいます。
どこをどの程度変更する必要があったのか、**のように作成したので、**のクラスはそのまま使用することができたといったこと等をメモしておいてください。